

新年のごあいさつ

社団法人東京都リサイクル事業協会（東り協会）
 会長 上田雄健



皆さまにおかれましては輝かしい新春をお迎えのことと拝察申し上げます。日頃より当協会の運営にご理解とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

当協会は、「品質」「効率」「持続」をモットーに、都内の再生資源流通を支える責務を全うすべく努力しているところであります。

リサイクル事業への信頼を損ね、ルールと秩序を乱す古紙持ち去り行為に対しては、行政やリサイクル事業者等関係各者のご理解とご協力を得て、未だ根絶には至ってはいませんが着実に成果を上げてきたと確信しております。とりわけ関東製紙原料直納商工組合が実施した GPS 追跡調査は、持ち去り関与問屋の特定につながると、マスコミ各社でとりあげていただき大きな反響を呼ぶことができました。また「車両識別（ステッカー）制度」も普及しはじめ、現在約 900 台弱の車両が登録され、市中を走り回っています。

申し上げるまでもなく、我が国の資源循環型システムは、住民や事業者の皆さんの分別排出による手間に支えられ、必要に応じて行政の協力を得ながら、我々再生資源取扱事業者が効率的な流通を担い、高品質の原材料を需要家に引き渡すことで成立しています。世界中で類まれな循環システムは多くの人の信頼と絆によって長い時間をかけて構築されてきました。

古紙持ち去り行為に限らず、禁忌品混入への対応や品質を維持した持続的な流通体制づくりのためには、リサイクル現場に携わる私共から適切な情報発信等によって関係者の皆さまのご理解を得ていく必要があります。そこで当協会では本年より初等・中等教育向けの学習教材の開発に着手する予定です。

私共は本年 4 月より公益社団法人へ移行します。リサイクル業界唯一の公益団体としての社会的使命を果たしていく所存です。都民の皆さま、自治体をはじめとする関係機関の皆さまにおかれましては、当協会を社会的な連携と協力体制を強化するための窓口として是非ご活用いただきたいと存じます。本年も関係各者の皆さまからの引き続きのご教示ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



平成 25 年を振り返り、再生資源リサイクル分野における 10 大ニュースを挙げてみました。詳細は次頁で紹介しています。

1 古紙持ち去り対策
 -GPS追跡調査本格実施

2 古紙持ち去り対策
 -識別制度登録車両増加

3 23区内事業系ごみ処理料金改訂

4 古紙リサイクル
 -安定価格帯近づく

5 金属リサイクル
 -価格回復

6 小型家電リサイクル
 -自治体で回収はじまる

7 古紙禁忌品
 -チェック対応に追われる

8 容器包装リサイクル法
 -見直し議論はじまる

9 びん商・古紙問屋組合
 -50周年を迎える

10 (社)東り協会公益社団法人へ
 移行の答申出る

本書の目次	■ 平成 25 年リサイクル業界 10 大ニュース	→ 2 ~ 3 頁
	■ 古紙持ち去り根絶のための GPS 追跡調査	→ 4 ~ 5 頁
	■ 再生資源市場の近況（報告）	→ 6 頁



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



再生資源リサイクル 25年 10大ニュース

1 古紙持ち去り対策 - GPS追跡調査本格実施

古紙持ち去り行為を根絶のために、古紙問屋組合の関東製紙原料直納商工組合（関東商組）では、関東域内の自治体との協力により、GPS追跡システムを利用した持ち去られた古紙の追跡調査を開始しました。これにより、古紙受入問屋の特定につながるとともに、持ち去り行為そのものへの抑止効果をあげました。また、多くのマスコミにとりあげていただき、この問題への社会的取り組みに拍車をかけることとなりました。

2 古紙持ち去り対策 - 識別制度登録車両拡大

古紙持ち去り行為を根絶させようと古紙関連8団体からなる古紙持ち去り問題意見交換会が正規回収車両に古紙持ち去り車両と識別できるステッカー貼付制度を一昨年より開始しました。平成25年12月末時点で、約900台弱の車両が登録されています。この制度が普及することで、古紙持ち去り車両の特定につながり、持ち去り車両締め出し効果が期待されます。

3 23区内事業系ごみ等の 処理手数料改訂

23区内の事業系ごみ等の処理手数料が平成25年10月から改訂されました。これまで32.5円/Kgだったのが、4円/Kg[内訳3円/Kg(収集運搬費)1円/Kg(処分費)]値上がり、36.5円/Kgとなりました。実処分費との乖離を縮小するのが目的ですが、一方でリサイクルへのインセンティブが働くことが期待されます。

4 古紙リサイクル - 段ボール安定価格帯近づく

数年来古紙需要と価格面において低迷が続いていた古紙ですが、段ボールについては平成25年6月より製紙メーカーの消費量が前年同月比で増加に転じ維持しています。価格についても民々で安定的にリサイクルできる最低価格帯に近づいてきました。他の主要品目の回復も期待したいところです。

5 金属リサイクル -価格回復

鉄スクラップ（含むスチール缶）については、個人消費の拡大や消費増税等の駆け込み需要等により、長引く価格低迷状況から完全回復を果たしました。アルミスクラップは、アルミ精錬業の海外移転という構造転換による、原料逼迫感が起こり、高値取り引きがされるようになりました。

6 小型家電リサイクル -自治体で回収はじまる

平成 25 年 4 月より、小型家電リサイクルが施行されました。携帯電話や CD プレーヤー等買い替えサイクルの短い小型電子機器が対象となっており、回収方法や対象品目は自治体によってさまざまです。まだ実施していない自治体もありますが、有用金属が多く含まれる小型家電のリサイクルにご協力をお願いします。一般廃棄物収集運搬業の許可を受けずに軽トラックなどで回収している場合廃棄物処理法に抵触します。フロンガスなど適正処理の確認ができないため問題です。行政や行政から受託する等正規の事業者へ排出するようお願いいたします。

7 古紙禁忌品 -チェック対応に追われる

昇華性インクで印刷された転写紙（≒アイロンプリント紙）※や発泡感熱紙、においつき紙が古紙として出され、回収時や選別時でのチェック対応に追われました。これら禁忌品は回収段階での発見は困難であるため、排出段階での分別が不可欠です。皆さまの分別排出のご協力をお願いします。
※使用済昇華転写紙・・・主に絵柄などを布地に加熱してプリントする際に使われる紙で、古紙に混入すると紙箱等の製品にあじさい斑点状となって出現します。

8 容器包装リサイクル法 -見直し議論はじまる

容器包装リサイクル法の見直しのため、関係者へのヒアリングが実施されました。リサイクル業界としてはリターナブルびんの流通促進システムや紙製容器包装の回収システムのあり方等、つながりが深い法律のため、見直し改善のため、広域組合等を通じて活動を展開していく必要があります。

9 びん商・古紙問屋組合 -50周年を迎える

リターナブルびんを扱う東京壘容器協同組合と古紙の直納問屋によって構成される関東製紙原料直納商工組合が組合創立 50 周年を迎えました。高度経済成長とともに、主要再生資源の需要が高まり、市中からの回収量も飛躍的に伸びていった時期に各組合が生まれました。ちなみにリサイクル事業者には創立 100 年を超える事業者が多数存在し、古くからリサイクルが生業として成立していたことがうかがえます。

10 (社)東リ協会公益社団法人へ 移行の答申出る

当協会では、公益認定審議会へ公益社団法人移行認定の申請をしまし、平成 25 年 12 月認定の答申が出ました。これに伴い本年 4 月よりリサイクル業界唯一の公益団体としての活動を進めていくこととなりました。当協会を社会的な連携と協力体制を強化するための窓口として是非ご活用いただきたいと存じます。

特集

古紙持ち去り根絶のための GPS 追跡調査

——関東で広がる

1 調査の目的と概要

古紙直納問屋で構成する関東製紙原料直納商工組合（関東商組）では、関東地域の自治体と協力し、GPS（衛星利用測位システム）を用いた追跡調査を平成 25 年 2 月より開始しました。

実施自治体と関東商組を基本にした地元事業者組合等の関係者間で覚書を締結。自治体側は GPS 追跡調査開始する前に、広報等の手段で調査の事前告知を実施しています。

GPS を入れた古紙の束を置き、監視する自治体職員等が持ち去る現場を確認し、GPS で輸送ルー

トを追跡し、持ち込まれた問屋を特定し、指導するというものです。

もし、持ち込み先が組合員であれば、犯罪その他信用を失う行為をしたとして当該事業者の除名を含めた厳しい処分を課するというものです。また、国内製紙メーカー各社は持ち去り関与が明らかになった問屋とは取り引きをしないとしており、持ち去り関与問屋は事実上海外輸出に頼らざるを得ない状況となっています。



調査で用いる GPS 端末機器

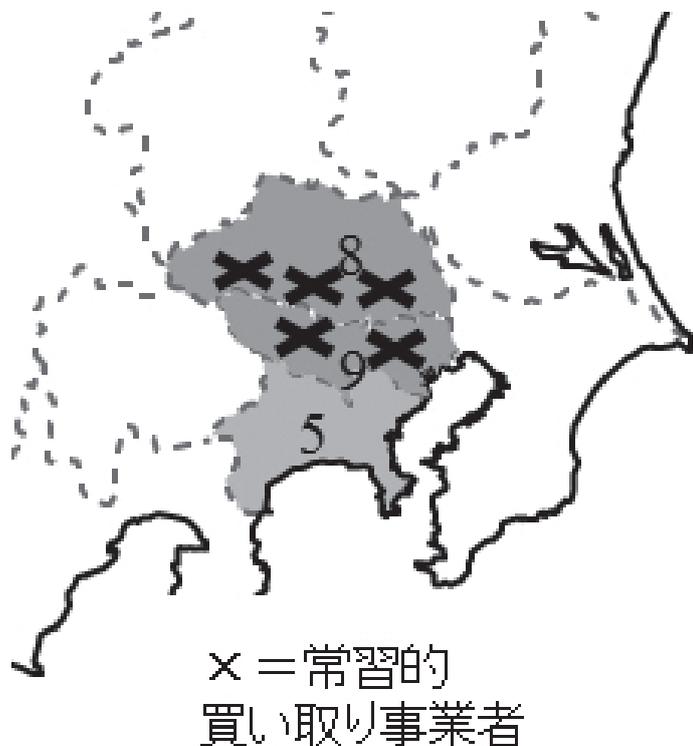
2 調査結果概要

これまで関東商組では、東京都・埼玉県・神奈川県内 22 の自治体に計 101 個を貸与（平成 25 年 12 月末現在）。約 11 ヶ月の間に 106 個の GPS 端末を古紙に入れ調査を実施。約 4 割にあたる 38 個が実際に持ち去られました。残りの 68 個は持ち去り被害に遭わずに正規ルートとして回収されました。

持ち込まれた古紙問屋数は計 8 社ですが、うち 5 社については複数回持ち込まれおり、常習的買い入れ事業者とみています。常習的買い入れ事業者はすべて組合員外となっており、今後は常習的事業者への具体的対応策が次の課題となっています。

GPS 追跡調査が始まった自治体エリアでは、持ち去り被害がなくなる等、古紙持ち去り行為への抑止力となって働いており、小さな端末が大きな効果を発揮していることは間違いありません。今後同組合と覚書を交わす自治体が増加していく見込みです。

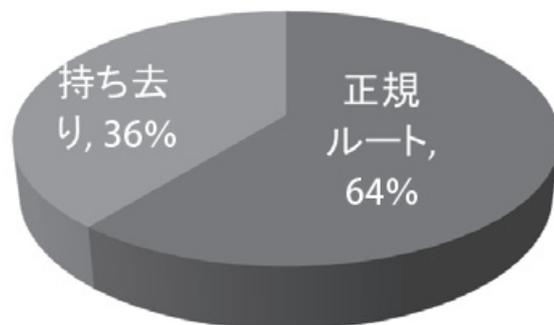
■調査実施自治体数と常習的買い取り事業者



■実施自治体と貸与端末個数

実施自治体数	22
端末器貸与個数	101

■持ち去られた割合



■常習的買入事業者に入った端末個数

買入事業者	端末器個数
A	10
B	5
C	5
D	5
E	2
合計	27 個

[資料提供：関東製紙原料直納商工組合]

再生資源市場の近況（報告）

■ 再生資源市況について ■

平成 26 年 1 月 6 日現在

品 目	市 況
鉄スクラップ	<p>昨年の日本経済は年初の緊急経済対策効果に加え、円高修正による企業収益の改善などを受けて内需を中心に回復軌道を辿り、年初よりH2で3万円を前後する相場が続いた。特に年後半は消費増税前の駆け込み需要による個人消費や住宅投資の拡大等もあって、H2で3万7千円近くまで上昇し、4万円をうかがう値が続いた。</p> <p>本年、日本鉄鋼連盟の粗鋼生産試算では、消費増税による減速が予測されるが、経済は好調を維持すると予測され、企業収益の改善で設備投資が進むと判断、粗鋼生産量は高水準を維持する。しかしながら、住宅や自動車が消費税増税の影響を受けることは避けられず、粗鋼生産量は昨年を若干下回ると予測、H2で3万5千円を中心に推移するであろう。</p>
飲 料 缶	<p>スチール缶については鉄スクラップ価格に連動し、H2より当たり1万円引き位にて取り引きされ、鉄スクラップと同様の動きを見せている。</p> <p>アルミ市況については昨年大きな転換点を迎えた。一昨年アルミ再生メーカー買値は^千100円前後で1年間推移したが、政権交代後の昨年初よりじりじりと値が上がり、平均して^千120円を下らない相場展開になった。アルミ業界は長く続いた円高不況の煽りを受けて、また電気料金の高騰から国内でのアルミ精錬業が壊滅した事により海外に逃げ場を求め、国内アルミ産業の空洞化が顕著に表れた。昨年は1年間通して原料が逼迫し、ルールを無視したアルミ原料確保の競争は、アルミ飲料缶にまで触手が伸び、入札を採用している自治体ではメーカー買値以上の驚愕の落札値段が横行した。</p> <p>今年も昨年と同様、アルミ原料の逼迫感は変わらないため高値が続くであろう。</p>
古 紙	<p>昨年の古紙市場は年初アベノミクスの効果の元、株高・円安により景気回復の期待が取りざたされていましたが、結果として古紙3品の需要は低迷を続けました。それに引き替え、年初からの円安基調は古紙3品の輸出に拍車をかけ、古紙価格も国内古紙価格より常に^千2円～3円高値でリードする形になりました。輸出量も一昨年の15%増に届く量に近づいた計算になります</p> <p>今年は昨年に続き国内古紙需要回復の期待は持てそうもなく、古紙輸出市況に左右される一年となるだろう。</p> <p>持ち去り問題に関しては、特定グループによる持ち去り行為が後を絶たず、今年は、国や行政をあげた対応の必要に迫られている。</p>
PET ボトル	<p>昨平成 25 年 PET ボトルのリサイクルは、日本容器包装リサイクル協会の入札において、上半期の落札平均単価は^ト当たり 2 万 1,277 円となった。落札最低価格は有償の 4 万 5,201 円、最高価格は逆有償の 38 万 4,211 円。昨年末に本年度の入札方法を検討した結果、PET ボトルの入札はポリエステル素材の市況の影響を大きく受けるため昨年度同様「年 2 回入札」に決定した。</p> <p>しかしながら、2 回入札を危惧する声もある。平成 24 年のデータによれば、PET ボトルの回収量は全体で 52 万 7,000^ト、その内市町村分別収集量は 29 万 9,000^トと半数以上をしめるが、法に基づく指定法人への引き渡しは 19 万 5,000^トしかなく、差引き 9 万 4,000^トは市町村が独自処理をしている。この量で従来の販売先であるシートメーカーや繊維メーカーに加えメカニカルリサイクルによる高品質需要が増えた場合、逼迫感が蔓延しアルミ同様に熾烈な競争が起きないとも限らない。</p>
廃プラスチック	<p>昨平成 25 年廃プラスチックのリサイクルは、日本容器包装リサイクル協会の入札において、年間平均^ト当たり逆有償の 5 万 4,781 円となり、年々千円づつの上昇になります。内訳みるとケミカルリサイクルが 4 万 1,561 円、材料リサイクルの白色トレイが 12 万 695 円、材料リサイクルの白色トレイ以外が 6 万 6,401 円となりました。ケミカルリサイクルの内訳では、高炉還元剤 3 万 4,128 円、コークス炉化学原料化 4 万 5,345 円、合成ガス化 3 万 6,429 円となり、ケミカルリサイクルが廃プラスチックを牽引しています。</p> <p>本年も昨年までの経緯を鑑みると、年間平均逆有償の 5 万 3,500 円程度に落ち着くと考えられます。</p>
ガ ラ ス び ん	<p>ガラスびんリサイクル促進協議会によると、この 7 年間リターナブルびんの流通量は年々減少傾向にあり、昨年も前年を下回る結果となった。しかしながら、都心部の区では新規開店レストラン等の数に比例し、回収されるびんの数量は増加傾向にあるが、全国区では減少傾向である。こうした状況を打破するべく、ガラスびん的环境優位性を広く社会に発信し、容器としての存在感をアピールし、びんの需要拡大に取り組んでいる。</p> <p>一方カレット業界は、円安と原油高によって製びんメーカーはカレット利用率を高める傾向にあり、カレット全般にわたり需要が増加。カレット回収量を増加させるための対応に迫られている。</p>



謹んで新春の お慶びを申し上げます



会員一同

東京都資源回収事業協同組合
理事長 吉浦高志

東京壘容器協同組合
理事長 田村豊也

関東製紙原料直納商工組合
理事長 大久保信隆

東京都製紙原料協同組合
理事長 近藤 勝

東京硝子原料問屋協同組合
代表理事 菅沢和志

東京廃棄物事業協同組合
理事長 豊城勇一

関東古繊維協会
代表 中野聰恭

千代田区リサイクル事業協同組合
代表理事 高橋 健

中央資源リサイクル事業協同組合
理事長 今井一夫

港区リサイクル事業協同組合
理事長 永田博孝

新宿区リサイクル事業協同組合
理事長 佐藤一郎

東京包装容器リサイクル協同組合
代表理事 笠井仁志

文京区リサイクル事業協同組合
理事長 吉川美知子

墨田リサイクル事業協同組合
代表理事 藤本幸一

江東リサイクル協同組合
理事長 大木健司

目黒区古紙回収業者連絡協議会
会長 斎木達也

大田区リサイクル事業協同組合
代表理事 西 義雄

世田谷リサイクル協同組合
理事長 井上英之

渋谷区リサイクル事業協同組合
理事長 信太政光

中野区リサイクル協同組合
代表理事 北田武夫

同業資源回収事業協同組合
理事長 荒木直義

北区リサイクラー事業協同組合
理事長 鰐淵雄二郎

板橋区資源リサイクル事業協同組合
理事長 皆川三彦

青梅資源リサイクル事業協同組合
代表理事 吉崎稔旺

八王子資源化事業協同組合
代表理事 池畑英樹

日野市資源リサイクル事業協同組合
代表理事 土方十四江

東多摩再資源化事業協同組合
理事長 吉浦高志

多摩市リサイクル協同組合
代表理事 佐々木義春

町田市資源協同組合
理事長 藤井孝春

港区の再生資源のリサイクルを支えて15年。

平成9年の設立以来、私たちは港区内のびん・缶やペットボトルの回収をはじめみなと資源化センターの運営業務を港区より受託し、資源ごみの回収・加工・売却を経て日々めまぐるしく変わる商業地域の変化や、大型マンションの急激な増加にも柔軟に対応し港区が目指す資源循環型社会の実現へ貢献してまいりました。

また、学校における環境教育のお役に立てていただけるよう、毎年港区区内の幼稚園、小学校、中学校に回収済みの古紙で製造しましたティッシュペーパーを配布しており平成21年からは区の住民の皆様、学校、事業所の皆様からのご協力をいただきましてペットボトルのキャップを集め、その売上金をユニセフ駐日事務所へ寄付しております。

私たちはこれからも資源循環型社会から一歩先を目指す組織であり続けたいと思っております。



港区小規模事業所リサイクルシステム推進協議会
港区リサイクル事業協同組合

事務局 〒108-0072 東京都港区白金5-13-6
電話 03-3442-2141 FAX 03-3442-0351



製紙原料商社

三弘紙業株式会社

代表取締役会長 上田雄健
代表取締役社長 上田晴健
本社〒113-0033 東京都文京区本郷1-30-17
☎(03) 3816-1171(代) <http://www.sankopaper.co.jp>

フエニックスリサイクルセンター

白山営業所	文京区白山 3-1-6	☎(03) 5689-0681
板橋営業所	板橋区大谷口北町 6	☎(03) 3955-4166
朝霞営業所	朝霞市泉水 1-8-21	☎(048) 464-5255
八王子営業所	八王子市宮下町 54-1	☎(042) 691-0221
相模原営業所	相模原市緑区西橋本 1-19-19	☎(042) 773-1194
鳩ヶ谷営業所	川口市南鳩ヶ谷 6-11-1	☎(048) 284-5501
戸田営業所	戸田市下笹目矢口 165-1	☎(048) 445-4546
大宮営業所	さいたま市中央区円阿弥 5-4-7	☎(048) 852-6456
吉原営業所	富士市江尾字中原 135-2	☎(0545) 34-1870
加須営業所	加須市大桑 2-12-1	☎(0480) 66-1601
みかもリサイクルセンター	佐野市田島町 236-1	☎(0283) 27-3375
裾野営業所	裾野市今里 542-7	☎(055) 965-3523
昭島営業所	昭島市松原 2-3-17	☎(042) 544-3004
静岡営業所	静岡市駿河区中島 613-1	☎(054) 281-7176

編集後記

昨年（平成25年）は、古紙持ち去り対策で関東製紙原料直納商工組合が自治体と協力しながら実施したGPS追跡調査が、テレビや新聞メディアで多数取り上げられ、社会的関心の高さを実感しました。環境展示会で出展した際も、来場者のほとんどの方が古紙持ち去り行為の存在をご存知で、排出者としてどう対応したらよいのかとの相談を受けることもありました。

GPS追跡調査によって持ち去り関与問屋が特定されてきた以上、最後の逃げ道をなくす手立てが必要です。刑法等の法律による取り締まりが最も効果的であることは間違いなく、社会的関心の高さや世論が後押しとなってくれることを期待しています。そうなれば輸出ルートも絶つことにもつながります。行政の方々との協力の輪を広げ、一日も早くリサイクルへの信頼をとりもどす一年にしていきたいと考えています。

2020年の東京オリンピック招致が決まりました。今では当たり前になったオリンピックの環境対策ですが、都内リサイクル事業者が一丸となって対応し、これまでになかった世界に誇れる東京都資源循環モデルの構築ができるかは、今年からの準備にかかっているかとも思います。本年も皆さまからのご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

We ♥ リサイクル 第23号

発行日：平成26年1月6日

発行人：上田雄健 編集人：永田博孝

発行所：(社) 東京都リサイクル事業協会
111-0055 東京都台東区三筋 2-3-9-701
TEL:03-5833-1030 FAX:03-5833-1040
<http://www.torikyokai.org>

印刷所：恵友印刷(株)